

第102号
2022年
9月21日発行

家族の窓

Kazoku no Mado



1病棟 加藤 恵子様
保護者様

1病棟コスモスでお世話になってます加藤恵子様です。生まれは、長崎市です。長崎医大で六歳の時に、脳性麻痺と診断されました。それからは、長崎病院と併設された施設へ入所し、リハビリを始めました。

中学生になる頃に、家庭の事情により高知に移り住むことになり、主治医の勧めで土佐希望の家に入所することができました。面会時には、先生、介護士、保護者の方々にとってもよくしていただき居心地のよさを感じていました。成人式を迎えた時は、周りの皆様にもお祝いしていただき、祖母、叔母、兄弟で喜ぶことができました。毎日、笑顔で食事をとり楽しく過ごしている姿を見ると安心して自宅へ帰ることができました。リハビリも進み、皆さま方とも仲良くできているようです。

今年、四十七歳になりました。施設での長い年月を大きな事故もなく過ごさせてもらい、希望の家に携わる方々には、感謝の気持ちしかありません。現在、コロナ禍で、面会、帰宅ができなくなり残念でなりません。早くコロナウイルスが終息してくれることを願っています。

また、この時期にお世話くださっている皆様に感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。これからも、宜しくお願い致します。ありがとうございます。

基本を守り、困りごとは相談して助け合う 希望の家

土佐希望の家 医療福祉センター
センター長 吉川 清志

季節はめぐり暑い夏です。暑さのピークは過ぎましたが、今しばらく熱中症や夏バテにご注意ください。

土佐希望の家 医療福祉センターでは、利用者さんや職員・職員家族に新型コロナウイルス感染者が散発していましたが、去る6月に新型コロナウイルス感染症クラスター(感染者集団)が、入所者さんと職員に発生しました。入所者さんは、早期診断早期治療により、重症化することなく治りました。職員は、PCR検査のほか毎日の抗原定性検査による早期診断早期隔離により、感染の拡大を一定程度に収めることができました。

職員は協力しよく頑張ってくれました。多くの方が、3回のワクチン接種を済ませていたことも重症化しなかった一因と考えられています。入所者さん、ショートステイ・通所・外来利用者さん、保護者の皆様には、大変なご心配とご迷惑をおかけしました。

原稿を書いている現在、第7波の感染者が急増しています。が、長期的には新型コロナウイルス感染症は、感染症法の2類



「サラリーマン川柳」。

困ったこと、気になることがあれば、子どもも大人も、家庭でも職場でも、周りの誰かに相談しましょう。相談を受けた人は、まず寄り添ってしっかりと話を聞いて下さい。自分でできること、仲間とできること、組織としてなすべきことを考えてみましょう。土佐希望の家には相談窓口があり、担当職員も決めていますので気軽に利用下さい。

相当から5類のインフルエンザ並みの病気となり、多くの制限は緩められてゆくと思います。そうなるでも利用者さんの重症化リスクは一般の方よりも高いので、一定の感染対策をしながら対面面会やイベントや外泊を再開してゆくことになるでしょう。これからのwith coronaの時代に希望の家がなすべきことは、コロナ前の状態に徐々に戻してゆき、利用者さんも職員も満足できる基本に忠実な事業の継続です。

戦争やコロナなど気分が晴れないことが多い中で、心に響いた言葉を紹介したいと思います。「しがみつくと満員電車の中。知らない人に舌打ちされる。ひざに乗られる。背中に荷物を置かれる。生きている気がした。息苦しい社会の中に私はいたい。」(NHKハート展 脊髄性筋萎縮症女性)、「誰にでも優しい人は、自分にだけ残酷になれてしまふ。周囲に気を使わずにしまい、疲れたら、傷ついたりしていませんか。その気持ち、思い切り言葉にしてよい場所があります。」(チャイルドライン 0120-99-7777)、「密なしで成り立つ文化土佐になし」(高知版

SARAの詩

「今だけ・・・」
色んなことを
ひとだんらしくして
今だけ
自分の時間はやっとできた
いそがしくなるから
わからないうから
音楽を聴けるだけ
きこう
きこう
音楽が魔法みたい
当時の自分を思い出す
思い出すって大事・・・

通信編集委員の紹介

- 1 病棟 飯田生活支援員・公文看護師
- 2 病棟 中澤看護助手・森本看護師
- 3 病棟 北岡生活支援員・十萬看護師

通所 野口生活支援員
栄養科 柏井主任
相談支援課 石川主任
◎通信編集委員会
委員長 野口 副委員長 飯田

今年度も楽しい情報をお伝えしていきます。
お楽しみに!!

ご寄附 7月末まで

竹崎久恵様
和下田理湖様
野村久美子様
近藤修様
長岡常雄様
竹添くに江様
宗石陽子様
福原公二様
大前田商店様
後免地区社会福祉協議会様
職員一同お礼申し上げます。

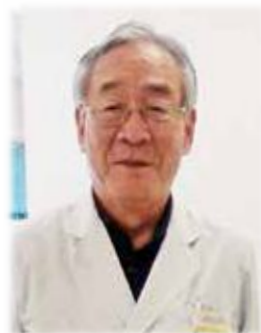
編集後記

月日が経つのは早いもので、今年度も半年が過ぎようとしています。今まで通信編集に関する全ての作業を通信編集委員のみで行っていましたが、今回発行号より編集・校正・印刷を西村謄写堂様へお願いすることとなりました。新誌面はいかがでしょうか。引き続き、記事内容の決定や記事集め、文章作成は従来通り委員で行いますので、通信で知りたい内容や通信の感想などお声をお待ちしています。

長年勤務してくださった長岡医師と筒井医師が令和4年5月末をもって土佐希望の家を退職されました。今までご尽力いただきありがとうございました。

ご挨拶

長岡 常雄



令和4年の春、土佐希望の家と幡多希望の家は一つの法人のもとで運営されることになりました。幡多に9年、土佐に6年と両施設に勤務させていただいた者として感慨深いものがあります。もともと幡多は土佐希望の家に入所していたお子さんのご家族が当時の交通事情によりなかなか面会が叶わず、幡多地域にも重心施設を作ろうと運動を始めたのがきっかけと伺っております。そのような経過から幡多に勤務中もなんとなく土佐は親施設のような親しみを持っていました。実際、幡多の入所者には土佐に入所していた経験のある方も少なからずおられました。

幡多はこじんまりとしてまともには良いのですが、施設の運営としては小規模なるがゆえに職員の充足や利用者の安定的な確保など困難な面も少なくありませんでした。そうした面から今回の同一法人化は願ってもないことに驚くこともありました。両施設のそれぞれの良い面を生かしながら職員の選択肢を増やす人事交流をぜひ進めてほしいと思います。

15年間お世話になりました皆様にお礼を申し上げますとともに、法人や関係者の皆様の益々のご発展をお祈り申し上げます。

ご挨拶

筒井 章夫



平成5年から9年間、今回は令和元年から3年間勤務し、5月末に一区切りとさせて頂きました。障害に対し理解の深い先輩・同僚の皆さまに支えられながら働くことができ感謝しています。医師数も増え、新しい医療機器も導入されるなど、年月の流れを感じました。病棟では利用者に向けられる職員の「温かい眼」に安心しました。電子カルテ導入によって利用者の方々が生きてきた証の一つである記録が見やすくなり、医療・介護双方の面で安心して生活できる礎ができたと思います。

障害児のご家族が設立した「土佐希望の家」は、利用者ご家族や職員の皆さまとともに各方面の支援のもと、紆余曲折がありながらも歩んできたと思っています。また私は、「障害のある方とともに生きていく」ことを胸に刻み、医師として障害者家族として働いてきました。今は、「お役所的な対応」が垣間見られることや職場の「ハラスメント対策」などが課題かと思えます。設立の原点を忘れることなく、利用者を中心としたより良い「希望の家」になることを願っています。

着任のご挨拶

土佐希望の家

常務理事（土佐） 福留 利也



皆様こんにちは。先の理事会並びに評議員会で選任をいただき、7月1日付けで常務理事に就任いたしました福留と申します。

私は、高知県庁に在職中、福祉分野の仕事に29年間従事しており、そのうち障害福祉課で通算13年勤務いたしました。

県庁の先輩であります小田切常務理事（総括）とは、障害福祉課などで長い間一緒に仕事をさせていただきました。

私の土佐希望の家との関わりにつきましては、平成7年に施設措置費（現在の給付費）の担当となり、山崎元理事長ご夫妻をはじめ多くの職員の皆様から施設の歴史や状況などを教えていただいた後、山の上にあった「第一・希望の家」の老朽化に伴い、施設の移転、改築により「第二・希望の家」と統合する施設整備を担当しました。

その後、障害者自立支援法（現在の障害者総合支援法）の施行に伴い、利用者の皆様との利用契約の締結や療養介護、生活介護などの新体系の事業への移行のほか、相談支援事業の実施などにも関わりを持たせていただきました。

当時は、それまでの重症心身障害児施設における児・者一貫した支援体制が継続できるのか、また、利用者負担額が応能負担から定率負担になることなどに関して、ご家族の皆様から不安の声を多くいただき、保護者会で説明させていただいたことを思い出します。

土佐希望の家は、創設以来、重症心身障害児・者の皆様の医療や福祉、生活の充実に向けて、入所施設における支援とともに、在宅で生活されている皆様の支援に取り組み、一昨年50周年を迎えております。

このような歴史があり、また、いつも利用者の皆様とご家族の皆様の中に寄り添いながら障害福祉の取り組みを着実に前進してきた土佐希望の家で勤務できることを大変嬉しく思います。

今年4月には、幡多希望の家と法人合併し、両施設で193床の重症心身障害児者施設を300人余りの職員体制で運営する規模の大きな社会福祉法人となりました。

このスケールメリットを生かして、今後も、重症心身障害のある方とご家族の皆様へのニーズに応じて、医療と福祉が一体となった質の高いサービスを安定的に提供していくことが求められております。

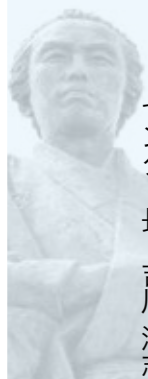
今後も、土佐希望の家のサービスを利用していたり、ご家族の権利を擁護し、安心して豊かに暮らしていただけるよう、微力ですが、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

第33回 重症心身障害療育学会 学術集会 開催について

標記学術集会を令和4年10月6日（木）・7日（金）の2日間、土佐希望の家 医療福祉センターが担当して開催します。会場は高知県民文化ホール（グリーンホール）と三翠園です。全国から51題の演題申込があり、土佐希望の家から3演題、幡多希望の家から1演題発表し、両施設職員には座長も務めて頂きます。特別講演は、牧野植物園の川原園長による「らんまん」―牧野富太郎博士と牧野植物園―（仮題）です。

また前日には、土佐希望の家の施設見学も予定しておりますので、職員の皆様にはご負担をお掛けしますが、皆様のご協力ですべての皆様の権利を擁護し、安心して豊かに暮らしていただけるよう、微力ですが、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

センター長 吉川 清志



令和4年度 土佐希望の家祭について

希望の家祭 実行委員長 生活支援員 早川 佐紀

こんにちは。今年度希望の家祭実行委員長になりました。通所事業所の早川です。コロナウイルスが猛威をふるいだし、早くも3年が経過しようとしています。ウィズコロナの時代となり、少しずつ制限も緩和されつつありますね。早く3年前の日常に戻るよう折りながらも、この状況で利用者さんにとどのような支援が提供できるか？現在の生活に満足して頂いているか？日々考えています。このような時代だからこそ前向きに、できることや新しいことにたくさん挑戦していきたいと思えます。そんな中、高知県では3年ぶりに高知市納涼祭やよさこいが開催され、活気が少しずつ戻ってきていますね。お祭りが行われると街中が明るくなるような気がします。

さて、今年も昨年度に引き続き、希望の家祭に替わる楽しい行事を行いたいと思います。今年のテーマは、「そうだ！お祭りへ行こう！希望の家祭2022つなごう未来へ」です。お祭りをコンセプトに、やぐら周りを踊りながら回ったり、屋台でくじ引きをする等、お祭り気分を味わい、楽しんでもらえるよう企画しています。様々な制約もまだまだありますが、それを忘れられるくらい、利用者さんの笑顔や笑い声が飛び交い、楽しんでもらえる日になるよう頑張りたいと思います。

「笑顔をモットーに」を大切に、利用者さん・職員一丸となり、素敵な一日になるよう取り組んでいきたいと思えます。よろしくお願ひ致します。



土佐希望の家後援会 活動紹介

土佐希望の家 後援会会長 竹内 栄一

こんにちは。私は元希望の家職員の竹内栄一です。今回は後援会の紹介と活動を報告させていただきます。後援会は平成23年4月に設立しました。現在会員は80名程で、元職員・現職員・保護者の方などが中心となり構成しています。目的は希望の家の事業を支援することです。

- 希望の家に對するボランティア
- 希望の家祭への参加支援
- 希望の家に對する寄附
- 後援会の総会および親睦会の開催

具体的にはおしゃべりカフェ、ボッチャ、コンサートや行事の主催、希望の家祭でフリーマーケットへの参加、希望の家玄関前プラントの花の植え替え、6月の総会・親睦会開催などです。

ところが、令和元年の希望の家祭に参加して以来、コロナで行事などが中止になり、希望の家へ行くことさえできず、利用者の皆さんにも会えない状態です。早くコロナが落ち着いて以前のようにカフェやゲームを行い、利用者の皆さんと一緒に笑ったり、昔話ができることを願ひながら、早く会いに行けることを楽しみにしています。



日中活動って何？ 病棟や通所では何をしているのかな？

3病棟行事 「ボッチャ」



ボッチャは、ヨーロッパで生まれたスポーツで、パラリンピックの正式種目です。

ジャックボール(目標球)と呼ばれる白いボールに、赤・青のそれぞれ6球ずつのボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりして、いかに近づけるかを競います。

障害によりボールを投げるができなくても、勾配具(ランプ)を使い、自分の意思を介助者に伝えることができれば参加できます。競技は男女の区別のないクラスに別れて行われ、個人戦と団体戦(2対2のペア戦と3対3のチーム戦)があります。

6月23日のお楽しみ会でボッチャ大会を行いました。東西対抗で、西棟(下村さん、大西さん、江口さん、濱口さん)東棟(下司さん、大黒さん、寺岡さん、初美さん)のメンバーです。個人戦ではなく、団体戦だった事と東京オリンピックで盛り上がった事も影響したのか、選手だけでなく、見学していた利用者さんはもちろん、サポートをしていた職員も緊張しながら応援していました。ゲーム1人目から接戦となり、なんと、最終戦もドローで、延長戦に突入しました。大将戦として、江口さん、下司さんで対戦しました。途中まで下司さんが有利に進めていましたが大逆転で江口さんが勝つと同時に西棟が優勝しました。大歓声の中、少し不満顔の下司さんの表情がボッチャの接戦を物語っていました。選手の皆様、お疲れ様でした。



3病棟 生活支援員 六久保 司

通所 「スヌーズレン」

通所事業所では、スヌーズレンという五感へ刺激を与える取り組みを日中活動として取り組んでいます。月ごとにテーマを決めた映像を提供し、癒される音楽を流して過ごします。暗い個室の中で光るバブルタワーや、アロマを焚いて、癒しの空間を提供します。利用者さんも、『眠くなった…』という方、色んな光をうっとり楽しむ方など、様々な様子で楽しんでくれています。

通所 生活支援員 野口 朱音





保護者様より綺麗なお花をいただきました。ありがとうございます。

ちよつといい話

実習生より

- ◎ 利用者の伝えたいことがあるという思いに寄り添って今すぐには対応が難しくても「いついつになったらお話し聞きますね。」と約束をしていました。
- ◎ 不穏になった利用者に対して、利用者の目線で視線を合わせ手を差し出し「お部屋に戻るなら手を下さい。」とゆっくり伝え利用者の気持ちを焦らず待っていた場面がありました。
- ◎ オムツ交換の際にも何気ない会話をしていたのがいいなと思いました。利用者も笑顔が見られ会話を楽しんでいました。
- ◎ 利用者さんの様子を常に「今日〇〇があった」「どんな様子だった。」と職員間で共有して声掛けしていました。
- ◎ コロナクラスターになり、利用者、職員ともに先の見えない不安と疲れが溜まっている時、物品の上のメモ書きに「お疲れ様です」と書いてあったこと、気遣いの配慮にいいね！と思いました。



高知若草特別支援学校 土佐希望の家分校

学校紹介

皆さん、土佐希望の家の隣にある特別支援学校をご存じですか？本校は、高知若草特別支援学校土佐希望の家分校です。土佐希望の家に入所している方の中にもたくさんの卒業生がいます。今回、土佐希望の家さんから本校での取組についてご紹介させていただく機会をいただきましたので、児童生徒の活動についてご紹介させていただきます。

高知若草特別支援学校 土佐希望の家分校 教頭 細木 秀紀

<小学部>

朝の会



朝の会を始めるよ

算数



しっかり見て。よいしょっと！

歩行週間



すご〜い！虹がきれい！

とさき科学体験



みんなのねがいがかないますように。

たなばたまつり

<中・高等部>

国語



国語の勉強を始めますよー

体育(ボッチャ)



ねらいをつけて。それ！！

彩詩(あやうた)
～雨に映ゆる紫陽花～

紙と遊ぼう作品展に出展し「高知県知事賞」をいただきました。

美術



とさきタイム



魚をたくさんとったどーっ

3
病棟



今回、期間限定で魚釣り大会を行いました。プールで泳いでいる魚をみんなで釣って、得点を競いました。魚には鯛やイカ、サメなどもおり、釣った際にはみんな驚いたり得点が高いと大喜びされていました。「やったねー」と利用者と職員も一緒に大はしゃぎし楽しい釣り大会を行うことができました。次の行事もみんなで楽しく参加したいですね。

(3病棟:生活支援員 北岡 亜里沙委員)



1
病棟

最近、巷でじわじわ人気急上昇中のキャラクター!!「ちいかわ」の手作りうちわでマッチングをしました。三枚の中から一枚選んで同じ絵が出るとバッチリです。利用者さんどうしは残念ながら合いませんでしたが職員は、同じ絵が出て盛り上がっていました。またみんなで楽しみましょうね。

(1病棟:生活支援員 飯田 暢子委員)



通所



通所事業所では毎年恒例の行事、夏祭りを開催しました。今年は自分たちで作ったお魚で魚釣りゲーム!POPなBGMや応援が響いてとても盛り上がりました!GETした景品と天の川の前でパチリ!たくさんの笑顔が見えた楽しい時間になりました♪

(通所:生活支援員 野口 朱音委員)



2
病棟

6月19日に山本やしお様、島崎純一様の還暦のお祝いをしました。お二人とも赤いちゃんこを身に纏い嬉しそうにされていました。お二人の60年間の生活を振り返ったスライドショーや職員による花笠踊りなどが催され他の利用者さんとても楽しそうにみておられました。最後に家族の方に頂いたメッセージが読まれ和やかなお祝いの時間になりました。

(2病棟:看護助手 中澤 直子委員)



プレイバック 懐かしい歴史 [土佐希望の家]

2015年
(平成27年度)

やまもも大運動会



↓ロードレース大会



第8回
土佐希望の家ロードレース大会
10:50 開会式
11:00 ~ 1組目レース
11:25 ~ 2組目レース
13:50 催しもの
14:00 3組目レース
14:20 結果発表、閉会式

障害者スポーツ大会→



↑案山子大会 いぎいきパワフルクラブ

↓栃煌山関 来所



←グリーンホールにて
平和コンサート



ハッスル神社→
あなたの夢かなえよう企画

↓レリーフ除幕式



↑ういざクリスマスコンサート



次回、平成28年度もお楽しみに...



秋刀魚のピリ辛煮

さんま 1匹
白葱(みじん) 5g
砂糖 3g・酒 5g
みりん 5g
こいくち 5g
豆板醤 1g

【秋が旬の食材】

きのこ(エリンギ・舞茸・しめじ)
芋(さつまいも・長芋・里芋)
野菜(南瓜・ちんげん菜・冬瓜)
魚(鮭・秋刀魚・鯖・鯛・鰹)
果物(巨峰・梨・りんご・柿)
などなど...

希望の家
秋のメニューです



厨房だより 旬を食べよう



旬とは、その食材が、1年で最もおいしく、栄養価が高くなる時期であり、人間がその季節に必要な栄養素をたっぷりと含んでいる時期の事です。

わたしの仕事

総務部
坂本 幸恵



私の仕事は、プールサイドでハワイアンを聴きながらトロピカルジュースを飲むことです。というのは冗談です。総務部、事務職員です。

事務職員の仕事としてわかりやすいのは受付業務ですが、それは私たち事務職員が共通業務と呼ぶもののひとつ。共通業務は事務職員の誰もがができるようにしています。内容は、電話応対や郵便の振り分け、保護者様からの問い合わせに答えるものや、職員からの要望で行うものなど多岐に渡っています。施設に関わる方々の用件を、スムーズに進められるよう心がけて、日々業務にあたっています。

それとは別で私が担当している仕事で主なものは、短期入所と生活介護を利用された方への福祉サービス費の請求と、職員の有給休暇(有休)データを入力し、給与関係担当へ渡すという有給関係の処理です。

そのほかに、7月までは物品購入関係も担当していました。各部署から預かった購入伺いをまとめ、決裁後に代理で注文する仕事です。頼んだものが

なかなか来なくて、心配されたことがありましたらすみません! 皆さん気長に待っていただき、ありがとうございます。

7月から物品購入関係は別の職員に引き継いで、代わりに新しく受け持っているのが、寄付関係、措置費請求、施設の保険、分校関係、補助金、出張費、入札関係です。上司と同僚からフォローをいただき、何とかこなしている毎日です。ありがたや。

事務所では、割と静かに仕事していますので、入りづらいかもしれませんが、事務職員全員ウェルカムなので、遠慮なく声をかけてください。むしろこちらから捕まえて声をかけることがあるかもしれません。噛みつきませんから怖がりないでください。

土佐希望の家へ転職して3年目になりました。いまだに挙動不審になりがちな小心者です。まだまだだと感じることはありますが、頼れる裏方になれるよう、コツコツと頑張っています。よろしくお願いたします。